

科目名		建築デザイン実習Ⅱ			
担当教員		伊與部 聖奈		実務授業の有無	
対象学科		建築デザイン科	対象学年		2
必修・選択		必修	単位数		1.5
			開講時期		前期
			時間数		48
授業概要、目的、授業の進め方		<p>年々進化を続け、新たな建築業界の主流になる「BIM」というツールを学び、身に付けていく。オートデスク株式会社のBIMソフト「Revit」の基本動作から、自分の表現したいことを適切に表現する方法や、実務で使える豆知識などを学んでいく。</p> <p>また、近年各業界で注目されている「REVIT Architecture ユーザー」試験の合格を目指し、正確な表現動作、知識、スピードを身に付ける。</p>			
学習目標 (到達目標)		<p>「REVIT Architecture ユーザー」試験を合格する。</p> <p>オリジナルの作品を自由にモデリングできる。</p>			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		<p>はじめてのRevit&Revit LT</p> <p>オートデスク認定資格プログラム 試験対策/配布資料</p>			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	課題①REVIT Architecture ユーザー試験対策			過去問やテキストに繰り返し取り組み、試験に合格する力を身に付ける。併せて動作の正確性やスピードを身に付ける。	
2	テキスト解説			教師がテキストの内容のデモンストレーションを行う。解説を聞きながら学生も同時進行で作業をし、試験で問われる内容を確認する。	
3	テキスト内容のやりこみ			テキスト内容を何度もやりこみ、基本動作を定着させるとともに、正確に動作ができる訓練を行う。	
4	スピードを意識した通し練習			試験時間内で正確かつ短時間で動作ができる練習を行う。	
5	課題②コンペティション作品のモデリング・表現方法			卒業制作で取り組んだコンペティション作品のモデリングを行う。	
6	モデリング表現の向上			表現したい内容について、各自で方法を模索しながら自由なモデリング表現ができるようになる。	
7	スケジュール管理			自分の作品に対して、自分でスケジュール管理ができるようになる。担当教員と相談し、スケジュールを見直ししながら課題の締切にきちんと完成させて提出する。	
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題内容	ユーザー試験合格	課題提出締切		<p>「BIM」は、建築業界及び自分の可能性を広げるツールです。中でも「Revit」はこれから主流となっていくであろう重要なソフトの一つです。それを学生のうちに使いこなせるようになっておくこと社会に出てからの活躍の幅が大きく違うはずで。ぜひいっぱい触って、楽しみながら技術を身に付けましょう。</p>	
60 %	30 %	10 %	%		
成績評価基準は					
A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		意匠設計実務4年			